



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT 2011年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2011年度

ANNUAL REPORT 2011年度

INDEX

目次

はじめに	
イノベーション研究センターについて	i
I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) 産学官連携プログラム	04
3) 共同研究プロジェクト	07
4) 国際シンポジウム等	12
II. 研究員	17
1) 専任研究員	18
2) 兼任研究員	38
3) 外国人研究員（客員）	38
III. 教育活動	39
1) 講義	40
2) 資料室	45
IV. 研究成果および刊行物	47
1) 一橋ビジネスレビュー	48
2) ワーキングペーパー	53
3) ケーススタディ	54

イノベーション研究センターは、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、イノベーションの生成プロセスに関するわれわれの理解は不十分な状況にあり、技術開発の領域でイノベーションが扱われることはあっても、技術的発明が産業発展へと実を結ぶまでの長い社会的プロセスには、十分な注意が払われてこなかったといえます。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。イノベーション研究センターが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

主たる研究領域として、技術や組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明しようとする「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者の個人的特徴を解明しようとする「革新者研究」、また、企業や大学、個人などの主体間のつながり方によってイノベーションが受ける影響を解明しようとする「ネットワーク研究」、こうした実証的研究を大きな視野で位置づけ、背後にある歴史的コンテクストを理解し、イノベーションの発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などのイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、そしてさらに、これらの実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる領域として「知識経営研究」、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」が設けられています。

イノベーション研究センターでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11 月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として 発足した
1945年	5 月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5 月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6 月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4 月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4 月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育 研究施設に改組されて発足した
2000年	9 月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊

I. 研究活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2011年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回程度のペースで行っている (<http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/event/event.html>)。

4月27日	大杉 義征「日本初の抗体医薬アクテムラの開発経験とその含意」 一橋大学イノベーション研究センター特任教授
5月25日	Khare Prajakta Amit "SME Clusters in India: Possibility of Drawing Lessons from Japan" 一橋大学イノベーション研究センター特任講師
6月3日	原嶋 茂「環境調和型オイルフィルタの開発とその生産システム」 (株)デンソー 生産技術部 PALAP 事業プロジェクト室 次席部員 (GCOE プログラム・大河内賞ケースプロジェクト)
6月17日	Edmund Kitch "Prospect Theory View of The Role of Patent System: Lessons from Bayh-Dole Experiences" Professor, Virginia Law School
8月1日	調 麻佐志「ファンディングプログラムにおける科学計量学的手法の利用可能性」 東京工業大学工学部准教授
10月26日	Fernando Suarez "Research on Industry Life Cycles: Origin, Evolution and Current Trends" 一橋大学イノベーション研究センター客員教授／Chair, Strategy & Innovation Department, Boston University, School of Management
11月17日	富澤 宏之・林 隆之「『科学技術イノベーション政策の科学』と統計データ・科学計量学・研究開発評価」 文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術基盤調査研究室長；大学評価・学位授与機構 評価研究部・准教授
11月24日	山崎 晃 "Study of the Management for Successful R&D Projects Supported by Public Funds" 千葉工業大学社会システム科学部教授／イノベーション研究センター非常勤共同研究員
11月30日	Horst Otto Hanusch "Governance in Stormy Times: Explaining and Fighting the Current Crisis in a CNSE-Framework" 一橋大学イノベーション研究センター客員教授／アウグスブルク大学教授
12月1日	能見 利彦・長岡 貞男「産官学連携と知識移動プロセス」 経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進課 産学官連携推進研究官；イノベーション研究センター教授
12月14日	1) Minna Autio and Jaakko Autio "Consumer-driven Innovation in Retail Service Culture/ Empowering Employees and Activating Consumers" University of Helsinki 2) Anssi Smedlund "Value Co-Creation in Service Platform Business Models" Aalto University 3) Otto Makela "The Business Model as a Tool of Improving Value Creation" Aalto University

4) Naoto Nadayama "Acceleration of Change in the Firm - Participant Observation Research in Finnish Companies"

Aalto University

1 月13日	平田 実 「エアレーション造型法の開発と実用化」 新東工業株式会社 鋳造事業本部鋳機技術 G グループマネージャー (GCOE プログラム・大河内賞ケースプロジェクト)
1 月16日	清水 剛「会社法人の人口学」 東京大学大学院総合文化研究科准教授
1 月19日	田中 一宜 「研究開発戦略と科学技術体系ーナノテクノロジー・グランドデザイン」 独立行政法人 科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー, ナノテクノロジー・ グランドデザイン
1 月26日	Martin Hemmert "Relational Governance in New Product Development Collaborations: Evidence from Korea" Professor, Business School, Korea University
1 月26日	田中 仁史 "Intellectual Property Rights and Foreign Direct Investment: A Welfare Analysis (co-authored with Tatsuro Iwaisako)" 北海学園大学経済学部准教授
2 月 9 日	正田 淳一郎 「高効率・高温ガスタービンの開発と工業化」 三菱重工業株式会社 原動機事業本部 ガスタービン技術部長 (GCOE プログラム・大河内賞ケースプロジェクト)
3 月14日	1)Anja Schulze "Lean Product Development (The Management of Efficiency in New Product Development): A Research Project that Bridges Japan and Europe as well as Industry and Academia" Director of Swiss Center for Automotive Research at the Department of Management, Technology, and Economics (D-MTEC) of ETH Zurich 2) Florian Rittiner "Process Management from a Knowledge Brokerage Point of View" Scientific Collaborator, Department of Management, Technology, and Economics (D-MTEC) of ETH Zurich 3)Simge Tuna "Attention Based View to New Product Development: A Case of Set Based Concurrent Engineering in the Top Pharmaceutical Machinery Supplier" PhD student, Department of Management, Technology, and Economics (D-MTEC) of ETH Zurich 4) Stefano Brusoni "Reinventing the Wheel: Knowledge Integration in the Tire Industry" Professor, the Chair of Technology and Innovation Management at the Department of Management, Technology, and Economics (D-MTEC) of ETH Zurich

2. 産学官連携プログラム「イノベーション過程の研究」 ——2011年度

イノベーション研究センターは、政府からの特別交付金による支援を受けて、2008年度より産学官連携によるイノベーション過程の研究プログラムを開始した。イノベーション研究センター専任教員に加え、本プログラムのために招聘した特任教員、研究員が各プロジェクトに取り組んでいる。本年度は、さらなる研究の進化を目指して新たに、バイオ分野では大杉義征氏（中外製薬株式会社学術本部顧問）を特任教授として迎えた。プログラムの概要、および本年度の活動は以下の通り、より詳しい内容は、<http://www.iir.hit-u.ac.jp>。

■ 目的

イノベーションが日本経済の今後の成長の鍵となっている。イノベーションは知識の創造においてもその活用においても、高度に複雑でかつ社会的分業を伴う過程であり、その効果的推進の在り方を明らかにするには、体系的で客観性のあるデータの蓄積とそれによる創造から利用までのプロセス全体の研究が必要となる。本研究プログラムは、イノベーション・プロセス（知識生産のメカニズム、研究開発における競争と協調の在り方など）に関する研究を産学官連携によって推進し、国際的な水準の研究成果を得ると共に、その成果を政府機関・産業界の技術経営能力の向上、及びイノベーション推進のための斬新な政策・制度改革の提言に具体化することを目指す。

■ 研究分野

〔1〕 イノベーション過程の測定

政府が支援した研究プロジェクトの体系的なケーススタディ、そのアンケート調査、及び特許などの統計データをも利用した実証分析等を通して、知識融合など知識生産のメカニズムの実態を把握する。

具体的には、文部科学省科学技術政策研究所（NISTEP）と連携して、これまで大学が蓄積したサーベイ調査のノウハウ、及びNISTEPのデータベース情報を活用して科学者への大規模な質問票調査を実施、知識生産プロセス、研究のアウトプット、研究環境やインプットなどを把握して、科学における知識創造過程や科学知識からイノベーションが創出される過程について実証研究を行う。

また、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との連携で、これまでのイノベーション研究の成果を活用しつつ、イノベーション過程の測定方法に関する理論的研究や手法の開発を進める。並行してNEDOが支援した研究プロジェクト及び研究者のデータベース化を行い、このデータを対象として理論や研究手法の実践的検証を行うことで、知識融合、知識生産のメカニズム、知識の商業化過程などの実態を把握、分析する。

〔2〕 技術経営

研究開発の成果を国あるいは産業界全体として効率的にイノベーションに結びつけていく技術経営の在り方を研究。社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）半導体ロードマップ委員会、経済産業省、また半導体製造装置、半導体デバイスメーカーなど産業界の協力を得た研究体制を構築し、世界半導体ロードマップ（ITRS）が生み出されるメカニズム、ITRSが果たしてきた歴史的な意義・意味（含む限界）、将来におけるITRSの発展可能性等々に関した研究を進める。また、財団法人バイオインダストリー協会、及び日本製薬工業協会医薬産業政策研究所と連携して、バイオ分野におけるハイテク・スタートアップ企業の参入・成長メカニズム、及び医薬品産業との連携のあり方の研究を進める。

[3] 政策・制度

上記の事例研究、統計的なデータベース、国際比較研究をベースに、日本における新産業の創出、既存産業の持続的な革新に障壁となっている問題点を分析し、斬新な提言につながる研究を行う。

■ 研究担当（2011年度）

イノベーション研究センター各専任教員

遠藤 章	客員教授／株式会社バイオファーム研究所代表取締役所長／東京農工大学 特別荣誉教授、他
伊神 正貫	特任准教授／文部科学省科学技術政策研究所 主任研究官
伊藤 達	特任教授／株式会社日立製作所研究開発本部 顧問
大杉 義征	特任教授／中外製薬株式会社学術本部顧問
所 源亮	特任教授／アリジェン製薬株式会社代表取締役社長
中屋 雅夫	特任教授／株式会社半導体理工学研究センター 代表取締役社長 兼 CEO
内藤 祐介	産学官連携研究員／株式会社人工生命研究所代表取締役
伊地知 寛博	非常勤共同研究員／成城大学社会イノベーション学部教授
大湾 秀雄	非常勤共同研究員／東京大学社会科学研究所教授
津野 勝重	非常勤共同研究員／Electron Optics Solutions
中村 健太	非常勤共同研究員／神戸大学大学院経済学研究科講師
本庄 裕司	非常勤共同研究員／中央大学商学部教授
大西 宏一郎	非常勤共同研究員／大阪工業大学知的財産学部専任講師
西村 陽一郎	非常勤共同研究員／神奈川大学経済学部准教授
塚田 尚稔	非常勤共同研究員／経済産業研究所研究員

■ 2011年度の活動と成果

1. NEDO プロジェクト：関連調査で得た知見を「NEDO プロジェクトから見たイノベーション過程」として学術雑誌に公開した。ヒアリング調査や発明データ整備も進め、プロジェクトと企業組織、コンソーシアム実施形態と情報共有、参加研究者の発明活動の変化等の研究を進め成果5本をワークショップで発表した。シーズ発掘から成果活用に至る過程の分析を目的とし、産学共同研究で発明を行った研究者への質問調査を文部科学省科学技術政策研究所と開始した。
長岡貞男・江藤学・内藤祐介「NEDO プロジェクトから見たイノベーション過程」『経済研究』62巻3号，2011年7月，253-269頁。
2. 半導体産業のイノベーション：最先端プロセス技術を事例として世界の関連 R&D ネットワーク内での日本勢の特徴を明確にするため、ベルギーIMEC、フランス LETI、フィンランド・ALD 発明者等への追加調査を実施、加えて大量の US 特許・主要学術論文データに基づいた社会ネットワーク分析を行った。その成果の1部を学術雑誌から公開した。また、同傾向が半導体設計分野でも発生している様子を一目瞭然化するため、STARC や日立中央研究所の設計開発者達との研究会を開始した。関連して国内外関連数社への聞き取り調査を実施した。さらに、半導体用測長 SEM や半世紀ぶりのイノベーションである電子顕微鏡球面収差補正技術に関する国内外での調査を追加実施した。

中馬宏之「半導体産業の R&D 戦略の特徴を探る：ネットワーク分析の視点から」,『経済研究』62巻3号, 2011年7月, 225-240頁.

3. バイオ分野のイノベーション：バイオ・インダストリー協会と実施中のスタートアップ企業調査の成果を American Economic Association で発表した。関連する新たな WP も公刊した。日米上場バイオ企業の成長要因の比較分析、日本初の抗体医薬アクテムラ開発過程の事例研究成果を研究ワークショップで発表した。
本庄裕司・長岡貞男・中村健太・清水由美「バイオベンチャーの成長への課題 – 提携と代表者の交代を中心に –」 IIR ワーキングペーパー WP#12-01, 2012年1月

3. 共同研究プロジェクト——2011年度

イノベーション研究センターでは、様々な学問領域の研究者が集まるグローバルハブとしての利点を生かし、既存のディシプリンにとらわれることなく、領域横断的に日本の産業が直面している問題や課題の解決に貢献することを目指した共同研究を進めている。

(開始年度順、*はプロジェクトの代表、又はコーディネーター)

■「ネットワークとイノベーション」

概要

フィールド調査に基づく実証比較研究によって、地域経済ネットワークやトランスナショナル・ネットワークにおける最新の動向を忠実に追うとともに、理論的な貢献をも念頭に置きながら、新発見を体系化していく。実証的証拠を積み重ねて、最新のスモールワールド・ネットワーク理論、ソーシャル・キャピタル論の妥当性やその応用も企図する。新進気鋭の若手学者らとの緊密なコラボレーションを通して、実証研究を着実に進め、多くの新発見を伴う、実り多い共同研究を目指す。

期間

2004年度～

研究メンバー

西口敏宏*、辻田素子（龍谷大学）、許 丹（中国・同济大学）

2011年度の活動と成果

本年度は、近年その並外れた経済的繁栄で注目を浴びる、中国・温州人が中国内および海外に張り巡らせた企業家ネットワークの実態と諸機能を追って、8年がかりでフィールド調査を実施（18カ国で、約400団体、約600人にインタビュー）した結果を集計し、現時点ではまだ部分的とはいえ、テーマ別にまとめた3本の一橋大学イノベーション研究センター・ワーキングペーパーの形式で発表した。次年度以降は、そうした成果を統合し、よりまとまった形での学術書の出版に向けて、大きなステップを踏み出すことを企図している。

■「GCOE 大河内賞ケース研究」

概要

本プロジェクトは、日本の優れた技術革新を長年にわたって表彰してきた伝統と権威ある賞である「大河内賞」を受賞した業績を事例としてとりあげ、日本のイノベーションのケース・データを蓄積し、ケース横断的な比較分析を行って、日本企業のイノベーション活動の特徴や課題を探り出すことを活動の主な目的としている。また、ケースの分析を深めつつ、技術の世界と社会科学の世界の知見を結ぶための貴重な場を構築し、日本社会が今後イノベーションを創出していく上で有益な知見を導き出していくことを目指している。本プロジェクトは、文部科学省21世紀 COE プログラム「知識・企業・イノベーションのダイナミクス」（2003-2007年度実施）からグローバル COE プログラム「日本企業のイノベーション—実証経営学の教育研究拠点」の一環として活動を継続し、研究成果をケーススタディとしてまとめて広く公開していくほか、過去の研究成果とあわせて、さまざまなケースを俯瞰し、横断的な分析を加えながら、研究論文、著作物などにまとめていく計画である。より詳しい内容は、

<http://www.iir.hit-u.ac.jp>。

期間

2008年度より5年間

研究メンバー

青島矢一*、中馬宏之、延岡健太郎、軽部 大、清水 洋、加藤俊彦（商学研究科）、松井 剛（同）、武石 彰（京都大学、前 IIR 教授）、宮原諄二（前 IIR 教授）

2011年度の活動と成果

受賞者による講演会を3回実施、新たな事例研究に取り組むとともに、昨年度までの活動を継続して以下を公表した。

著書：

武石彰・青島矢一・軽部大『イノベーションの理由：資源動員の創造的正当化』有斐閣，2012年3月

論文：

- (1) Shimizu, Hiroshi and Satoshi Kudo, “How Well Does Knowledge Travel? The Transition from Energy to Commercial Application of Laser Diode Fabrication Technology,” *Business and Economic History On-Line*, Vol.9, 2011
- (2) 小阪玄次郎「研究開発組織における集団ベースの多様性と個人ベースの多様性：セラミックコンデンサ業界を事例として」『組織科学』Vol.45 No.2, 2011, 74-86頁
- (3) 積田淳史・藤原雅俊「ICT 化を通じた企業成長プロセス：大河内賞受賞2社の比較事例分析」一橋大学日本企業研究センター（編）『日本企業研究のフロンティア・第7号』, 2011, 89-98頁

- (4) Shimizu, Hiroshi and Yusuke Hoshino, "Does Collaboration Accelerate R&D? Evidence from a Data-Set of the Okouchi Prizes," DRUID, 2012
- (5) 三木朋乃・高永才「デジタル X 線画像診断システムの製品開発プロセス—富士フィルムの FCR 開発事例を通して」『赤門マネジメント・レビュー』10巻11号, 2011年11月 755-788頁

ケーススタディ：

- (1) 青島矢一・北村真琴「ビジネスケース：セイコーエプソン 高精細インクジェットプリンターの開発」『一橋ビジネスレビュー』59巻3号, 2011年12月, 134-156頁
- (2) 藤原雅俊・青島矢一・三木朋乃「ビジネスケース：東レ 逆浸透膜事業の創造プロセス」『一橋ビジネスレビュー』59巻1号, 2011年6月, 150-167頁
- (3) 奥村祐一郎・江藤学「セイコーエプソン株式会社 3LCD プロジェクト開発と事業化」IIR ケース・スタディ CASE#12-01, 2012年1月
- (4) 小室匡史・江藤学「三菱電機株式会社 人工網膜チップの開発と事業化」IIR ケース・スタディ CASE#11-03, 2011年9月
- (5) 伊藤誠悟「デンソー 自動車用発電機：Ⅲ型オルタネータの開発・事業化」IIR ケース・スタディ CASE#11-01, 2011年5月

ワーキングペーパー：

- (1) Kubota, Tatsuya, Yaichi Aoshima and Youngjae Koh "Influence that Distance from the Divisional Environment has on the Innovation Process: A Comparative Analysis of ArF Resist Materials Development," IIR Working Paper WP#11-04, 2011
- (2) Aoshima, Yaichi and Tatsuya Kubota "An Influence of Organizational Positioning of R&D Activity on Innovation Process: A Comparative Analysis of ArF Resist Materials Development," IIR Working Paper WP#11-06, 2011

学会発表・学会発表論文：

- (1) Kubota, Tatsuya, Yaichi Aoshima and Youngjae Koh, "Influence that Distance from the Divisional Environment has on the Innovation Process," proceedings of Second Asia-Pacific Innovation Conference, May 3-4, 2011, Singapore
- (2) Aoshima, Yaichi and Tatsuya Kubota, "An Influence of Organizational Positioning of R&D Activity on Innovation Process: A Comparative Analysis of ArF Resist Materials Development," proceedings of the R&D management conference 2011, June 28-30, 2011, Norrköping, Sweden. Presented at the R&D Management Conference 2011, Sweden
- (3) Shimizu, Hiroshi and Satoshi Kudo, "How Well Does Knowledge Travel? The Transition from Energy to Commercial Application of Laser Diode Fabrication Technology," Business History Conference 2011 Annual Meeting, Missouri, USA, March-April, 2011

- (4) Koh, Youngjae and Tomono Miki, "Two Kinds of Core Technologies," proceedings of AJBS conference 2011, June 2011
- (5) Miki, Tomono and Atsushi Tsumita, "Can Public Laboratory Make Innovation Happen?," proceedings of The R&D management Conference 2011, June 2011
- (6) Koh, Youngjae and Tomono Miki, "Technology Innovations and Customer' s Knowledge Accumulations," proceedings of PICMET 2011 Conference, 2011 July
- (7) Kosaka, Genjiro, "Individual-level and Group-level Skill Diversity as a Driver of Innovation: A Multi-level Analysis of the Ceramic Capacitor Industry," paper presented at European Group of Organization Studies Pre-Colloquium Post-Doctoral and Early Career Scholars Workshop, University of Gothenburg, Sweden, July 2011
- (8) Kosaka, Genjiro, "Skill Diversity, Network of Engineers, and Innovation: An Exploratory Case Analysis of the Ceramic Capacitor Industry," paper presented at The Association of Japanese Business Studies Paper Development Workshop, Nagoya, June 2011
- (9) Fujiwara, Masatoshi and Atsushi Tsumita, "How do Traditional Family Firms Integrate New Technologies?: From a Comparative Study on Two Japanese Family Firms," 7th Workshop on Family Firms Management Research, May 28, 2011, Witten, Germany

■産学官共同研究「CO2削減とイノベーション」

概要

本プロジェクトは、CO2削減をいかにイノベーションに結びつけるかという研究テーマにイノベーション研究センター、東京大学生産技術研究所特任教授金子祥三研究室、三菱重工業株式会社、日本経済新聞社が共同で取り組んでいる。地球温暖化とCO2削減が今後日本経済や企業にどのような影響をもたらすか。CO2削減を通じて、日本、及び日本企業がいかに戦略的に日本国内に省エネ・低炭素社会のイノベーションを生み出していくか。いかに未来の成長エンジンとなるイノベーションを起こしていくか。産学官連携による融合的、学際的研究を進める。より詳しくは、

<http://www.iir.hit-u.ac.jp>。

期間

2009年度～

研究メンバー

米倉誠一郎＊、江藤 学、青島矢一、金子祥三（東京大学）、三菱重工業株式会社、日本経済新聞社

2011年度の活動

各界より講師を招いて研究会を6回開催したほか、中間報告として、アジア各国から研究者を集めて、「Sustainable Growth and Asian Energy Policy」と題して国際シンポジウムを開催した（シンポジウムの内容については16頁参照）。

■「Magicc: Micro analysis on green innovation and corporate competitiveness ～新産業の創出，既存産業の発展，制度設計と政策決定～」

概要

東日本大震災の影響を受けて、環境問題（温室効果ガスの削減）、エネルギー問題（脱原発の電力安定供給）、経済低迷（長引く低成長）という相互に矛盾する三つの深刻な問題を日本は抱えている。これら三つの問題を同時に解決するには、環境・新エネルギー関連の新産業の創出と、それらの新産業における安定的な付加価値の創出が必要になる。そのための方策を、企業や地域の現場に根ざしたミクロの視点から明らかにすることを目的としたプロジェクトである。太陽光、地熱、風力、水資源などの再生可能エネルギー産業だけでなく、火力ガスタービンや鉄鋼などの既存産業における技術革新にも焦点をあて、エネルギー、環境、経済発展の両立を実現するイノベーションの可能性を探っていく。より詳しい内容は、

<http://magicc.iir.hit-u.ac.jp/pickupblogs/>

期間

2011年度～

研究メンバー

青島矢一、清水洋、藤井由紀子、和久津尚彦、齋藤靖（西南学院大学）、藤原雅俊（京都産業大学）、松嶋一成（徳島大学）、高永才（甲南大学）、三木朋乃（立教大学）、積田淳史（武蔵野大学）

2011年度の活動と成果

各界より講師を招いて研究会を開催した。研究成果については以下の通りである。

論文：

- (1) 藤原雅俊・三木明乃・青島矢一「ビジネスケース：東レ 逆浸透膜事業の創造プロセス」『一橋ビジネスレビュー』59巻1号，2011年6月，150-167頁
- (2) 青島矢一「環境、エネルギー、産業競争力の両立を考える：ミクロの視点の重要性」『一橋ビジネスレビュー』59巻4号，2012年3月，78-96頁
- (3) Wakutsu, Naohiko "Long-Term Effect of Emissions Trading on Green R&D", proceedings of the 12th Science Council of Asia International Symposium, Borgor, Indonesia, July 11, 2012
- (4) Aoshima, Yaichi, Kazunari Matsushima, Manabu Eto, "Effects of Government Funding on R&D Performance leading to Commercialization," International Journal of Environment and Sustainable Development, forthcoming

学会発表：

Wakutsu, Naohiko and Yaichi Aoshima, "Long-Term Effect of Emissions Trading on Green R&D," International Mini-conference on Sustainable Growth and Asian Energy Policy, IIR, March 27, 2012, Hitotsubashi University

■「 Magicc: Micro analysis on green innovation and corporate competitiveness
～新産業の創出, 既存産業の発展, 制度設計と政策決定～」

概要

東日本大震災の影響を受けて、環境問題（温室効果ガスの削減）、エネルギー問題（脱原発の電力安定供給）、経済低迷（長引く低成長）という相互に矛盾する三つの深刻な問題を日本は抱えている。これら三つの問題を同時に解決するには、環境・新エネルギー関連の新産業の創出と、それらの新産業における安定的な付加価値の創出が必要になる。そのための方策を、企業や地域の現場に根ざしたミクロの視点から明らかにすることを目的としたプロジェクトである。太陽光、地熱、風力、水資源などの再生可能エネルギー産業だけでなく、火力ガスタービンや鉄鋼などの既存産業における技術革新にも焦点をあて、エネルギー、環境、経済発展の両立を実現するイノベーションの可能性を探っていく。より詳しい内容は、

<http://magicc.iir.hit-u.ac.jp/pickupblogs/>

期間

2011年度～

研究メンバー

青島矢一、清水洋、藤井由紀子、和久津尚彦、齋藤靖（西南学院大学）、藤原雅俊（京都産業大学）、松嶋一成（徳島大学）、高永才（甲南大学）、三木朋乃（立教大学）、積田淳史（武蔵野大学）

2011年度の活動と成果

各界より講師を招いて研究会を6回開催したほか、中間報告として、アジア各国から研究者を集めて、国際シンポジウムを実施した。

論文：

- (1) 藤原雅俊・三木明乃・青島矢一「ビジネスケース：東レ 逆浸透膜事業の創造プロセス」『一橋ビジネスレビュー』59巻1号, 2011年6月, 150-167頁
- (2) 青島矢一「環境、エネルギー、産業競争力の両立を考える：ミクロの視点の重要性」『一橋ビジネスレビュー』59巻4号, 2012年3月, 78-96頁
- (3) Wakutsu, Naohiko "Long-Term Effect of Emissions Trading on Green R&D", proceedings of the 12th Science Council of Asia International Symposium, Borgor, Indonesia, July 11, 2012
- (4) Aoshima, Yaichi, Kazunari Matsushima, Manabu Eto, "Effects of Government Funding on R&D Performance leading to Commercialization," International Journal of Environment and Sustainable Development, forthcoming

学会発表：

Wakutsu, Naohiko and Yaichi Aoshima, "Long-Term Effect of Emissions Trading on Green R&D," International Mini-conference on Sustainable Growth and Asian Energy Policy, IIR, March 27, 2012, Hitotsubashi University

KEYNOTE SPEECH 4

Chair: Reiko Aoki, Hitotsubashi University

"Network Dynamics: Theory and Evidence"

Luis Cabral, IESE Business School

PARALLEL SESSION 2

P.2.1 Invited Session: Standards, Patent Pools and Innovation

P.2.2 Contributed Session: Science, University Research and University Industry

P.2.3 Contributed Session: Patent and Policy

PARALLEL SESSION 3

P.3.1 Invited Session: Trade Secrets and Incentive

P.3.2 Contributed Session: Complexity and Spillovers

P.3.3 Contributed Session: Financing and Commercialization

Day 2: May 4th 2011

KEYNOTE SPEECH 5

Chair: Reiko Aoki

"Private Agreements for Coordinating Patent Rights: The Case of Patent Pools"

Nancy Gallini, University of British Columbia

PARALLEL SESSION 4

P.4.1 Invited Session: Knowledge, Innovation and Catch-up

P.4.2 Contributed Session: Sectoral Innovation and Industry Evolution

P.4.3 Contributed Session: Patents and Administration

PARALLEL SESSION 5

P.5.1 Contribution Session: National Innovation Performance 1

P.5.2 Contributed Session : R&D and Patent

P.5.3 Contributed Session: Inventors and Scientists 1

PARALLEL SESSION 6

P.6.1 Invited Session: Inventors and Invention Process

P.6.2 Contributed Session : Copyright and Trademark

P.6.3 Contributed Session : National Innovation Performance 2

PARALLEL SESSION 7

P.7.1 Invited Session: IPR Law Design

P.7.2 Contributed Session : Technology Transfer and Co-creation

P.7.3 Contributed Session: R&D Competition 2

■「科学における知識生産プロセス」日米ワークショップ

日米の科学者を対象とした知識生産プロセスについての大規模調査の結果を紹介し、両国における結果の共通性や差異を理解すると同時に、今後の研究のあり方や科学技術イノベーション政策への含意を引き出すことを目的として開催された。

日時：2011年6月23日（木）1:15 pm～5:50 pm（同時通訳付き）

会場：文部科学省 旧文部省庁舎 6階 第2講堂（千代田区霞ヶ関3-2-2）

主催：一橋大学イノベーション研究センター／文部科学省科学技術政策研究所

後援：米国国立科学財団 (NSF)

プログラム

開会の挨拶 科学技術政策研究所 所長 桑原輝隆

米国国立科学財団 東京事務所長 アン・エミック

Part 1 基調講演

司会 赤池伸一（一橋大学イノベーション研究センター教授）

講演者：ポーラ・ステファン（ジョージア州立大学教授／全米経済研究所）

「経済学が科学をどのように形成するか」

Part 2 日米の調査による主要な発見に関する報告

司会：青木玲子（一橋大学経済研究所 教授／総合科学技術会議）

1. 知識生産プロセス

報告者：長岡貞男（一橋大学イノベーション研究センター 教授）

2. 連携、研究チームおよび研究資金の調達

報告者：伊神正貫（文部科学省科学技術政策研究所 主任研究官）

3. 科学的発見の商業化

報告者：ジョン・ウォルシュ（ジョージア工科大学 教授）

調査結果に対するコメント

デイヴィッド・マワリー（カリフォルニア大学バークレイ校 ハース・ビジネス・スクール 教授）

Part 3 パネル・ディスカッション：「調査のインプリケーション及び科学とイノベーション政策の研究課題」

司会 長岡貞男（一橋大学イノベーション研究センター 教授）

リーディング・リマークス

ジュリア・レイン（米国国立科学財団 科学とイノベーション政策の科学 プログラム・ディレクター）

パネリストによるコメント

ポーラ・ステファン（ジョージア州立大学教授／全米経済研究所）

桑原輝隆（科学技術政策研究所 所長）

政策について

赤池伸一（一橋大学イノベーション研究センター教授）

青木玲子（一橋大学大学院経済研究所教授）

デイヴィッド・マワリー（カリフォルニア大学バークレイ校 ハース・ビジネス・スクール 教授）

アン・エミグ（米国国立科学財団 東京事務所長）

■ 国際ワークショップ「イノベーション過程の測定と経営」

イノベーション過程の測定と経営を焦点にして、「イノベーション過程の産学官連携研究プログラム」の共同研究プロジェクトの研究成果を発表し、討議を行った。米国のリーディング・スカラー3名に参加頂いた。本プログラムは、文部科学省の特別教育研究経費、科学研究費補助金基盤研究SおよびAの助成を受けている。

日時：2012年3月16日（金）9：30～18：10（同時通訳付き）

会場：霞が関ナレッジスクエア

主催：一橋大学イノベーション研究センター

共催：文部科学省科学技術政策研究所

後援：新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、日本製薬工業協会、バイオインダストリー協会

プログラム

基調講演（1）：

司会：後藤晃（政策研究大学院大学 教授）

演題：「ハイテクノロジーにおける特許発明と科学的発見の共進化」

講演者：リン・ザッカー（カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ラスキン公共政策大学院 教授、全米経済研究所）

コメント：青木玲子（一橋大学経済研究所 教授、総合科学技術会議議員）

セッション：日米における科学的発見のプロセス

司会：岡室博之（一橋大学大学院経済学研究科 教授）

（1）「パスツールの象限における研究：その重要性」

発表者：長岡貞男（一橋大学イノベーション研究センター 教授）

（2）「科学のマネジメント、セレンディピティー、研究業績：日米における科学者調査より得られたエビデンス」

発表者：清水洋（一橋大学イノベーション研究センター 准教授）

コメント：マイケル・ダービー（カリフォルニア大学ロサンゼルス校 アンダーソン経営大学院 教授、全米経済研究所）

司会：赤池伸一（一橋大学イノベーション研究センター 教授）

（3）「科学における知識生産に対する研究チーム組織および研究資金の影響」

発表者：伊神正貫（文部科学省科学技術政策研究所 主任研究官）

(4)「科学的発見の商業化プロセス」

発表者：ジョン・ウォルシュ（ジョージア工科大学公共政策大学院 教授）

コメント：リン・ザッカー（カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ラスキン公共政策大学院 教授、全米経済研究所）

基調講演（2）：

司会：長岡貞男（一橋大学イノベーション研究センター 教授）

演題：「メディカル・イノベーション、寿命の延長と経済成長」

講演者：フランク・リキテンバーグ（コロンビア大学経営大学院 教授、全米経済研究所）

コメント：大橋弘（東京大学大学院経済学研究科 准教授）

セッション：バイオ・スタートアップと医薬品のイノベーション

司会：中馬宏之（一橋大学イノベーション研究センター 教授）

(1)「日本のバイオテック企業の参入と成長のプロセス：過去十年來の教訓」

発表者：本庄裕司（中央大学商学部 教授）

(2)「日米上場バイオスタートアップの成長過程：資金制約 vs 技術シーズ」

発表者：西村淳一（一橋大学イノベーション研究センター 研究助手）

コメント：フランク・リキテンバーグ（コロンビア大学経営大学院 教授、全米経済研究所）

■ 国際シンポジウム「Sustainable Growth and Asian Energy Policy」

日時：2012年3月27日（火）10：00～17：30

会場：一橋大学佐野書院

主催：IIR

プログラム

Presentation 1: “Japan's energy policy”

Shozo Kaneko (Professor, Institute of Industrial Science, the University of Tokyo)

Presentation 2: “Eco-Friendly Product Development”

Hidefumi Nishigai (Engineer's Power to the Planet))

Presentation 3: “Energy Scenario and Renewable Energy Policy of India”

Chetan Singh Solanki (Associate Professor, Department of Energy Science and Engineering, Indian Institute of Technology, Bombay, India)

Presentation 4: “IT Evolution for Smarter Planet”

Kei Kawase (Senior Manager, Science & Technology, IBM Research - Tokyo)

Presentation 5: “Energy and Sustainable Business”

Patnaree Srisuphaolarn (Lecturer, Department of International Business, Logistics and Transport, Thammasart Business School, Thailand)

Presentation 6:

(1) “Balancing Energy Supply, GHG Reduction, and Industry Competitiveness”

Yaichi Aoshima (Professor, IIR)

(2) “R&D and Emissions Trading”

Naohiko Wakutsu and Yaichi Aoshima (Postdoctoral Fellow; IIR)



II. 研究員

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 専任研究員——2011年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D. (経営学) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

武石彰・青島矢一・軽部大『イノベーションの理由：資源動員の創造的正当化』有斐閣，2012年3月，506頁

1.2. 論文，本の1章

藤原雅俊・三木明乃・青島矢一「ビジネスケース：東レ 逆浸透膜事業の創造プロセス」『一橋ビジネスレビュー』59巻1号，2011年6月，150-167頁

青島矢一・北村真琴「ビジネスケース：セイコーエプソン 高精細インクジェットプリンターの開発」『一橋ビジネスレビュー』59巻3号，2011年12月，134-156頁

青島矢一「環境、エネルギー、産業競争力の両立を考える：ミクロの視点の重要性」『一橋ビジネスレビュー』59巻4号，2012年3月，78-96頁

Takeda, Yoko, Yaichi Aoshima and Kentaro Nobeoka, "The Importance of Technology Integration Capabilities: Evaluating the Impact on 3D Technologies on Product Development Performance in Japan and China," *International Journal of Product Development*, forthcoming

Aoshima, Yaichi, Kazunari Matsushima and Manabu Eto, "Effects of Government Funding on R&D Performance Leading to Commercialization," *International Journal of Environment and Sustainable Development*, forthcoming

1.3. その他

青島矢一「モノにとらわれず、モノにこだわる」『一橋ビジネスレビュー』59巻3号, 2011年12月, 111-113頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Aoshima, Yaichi and Tatsuya Kubota, "An Influence of Organizational Positioning of R&D Activity on Innovation Process: A Comparative Analysis of ArF Resist Materials Development," IIR Working Paper WP#11-06, April 2011

青島矢一・三木朋乃「日本における地熱発電の可能性：アイスランドの現地調査から」IIR ワーキングペーパー WP#12-05, 2012年2月

3. コンファレンス, 学会発表

Aoshima, Yaichi, "The End of 'Made in Japan' ?," 韓国人事組織学会, 2011年4月23日, ソウル, 韓国

Aoshima, Yaichi, "Influence that Distance from the Divisional Environment has on the Innovation Process — A Comparative Analysis of ArF Resist Materials Development," presented at the Second Asia-Pacific Innovation Conference, May 3-4, 2011, Singapore

網倉久永・青島矢一「内容分析とヘドニック回帰によるメーカー・ユーザー相互学習プロセスの定量的把握」, 組織学会 2011年度研究発表大会, 2011年6月3日, 慶應義塾大学, 神奈川

Aoshima, Yaichi and Tatsuya Kubota, "An Influence of Organizational Positioning of R&D Activity on Innovation Process: A Comparative Analysis of ArF Resist Materials Development," presented at the R&D Management Conference 2011, June 27-30, 2011, Norsholing, Sweden

Aoshima, Yaichi and Kazunari Matsushima, "Commercialization of Government Funded R&D: Follow-up Research Survey on NEDO Research Project," presented at PICMET '11 Conference, July 31-August 3, 2011, Portland, USA

青島矢一・松嶋一成「研究開発活動の波及効果:NEDO 支援プロジェクトの追跡調査研究」, 第26回研究・技術計画学会年次学術大会, 2011年10月16日, 山口大学

Yaichi, Aoshima, "Innovation that Achieves GHG Reduction, Stable Energy Supply, and Economic Growth: Potential of the geothermal energy," presented at Nordic Green Japan, Green Tech Conference and Exhibition, November 7-8, 2011, Tokyo

青島矢一「環境・エネルギー・経済成長：矛盾を解くための産業発展」, 静岡アジア太平洋学術会議, 2011年11月26-27日, 静岡

青島矢一「イノベーションプロセスにおける資源動員：イノベーション政策へのインプリケーション」, 政策セミナー：研究開発戦略と科学技術体系－科学技術イノベーション政策と経営学, 2012年1月12日, (独)科学技術進行機構研究開発戦略センター, 東京

青島矢一・松嶋一成「公的支援プロジェクトのマネジメントと成果」, IIR 主催産学官連携ワークショップ「イノベーション過程の測定と経営」, 2012年3月17日, 一橋大学

Wakutsu, Naohiko and Yaichi Aoshima, "Long-Term Effect of Emissions Trading on Green R&D," International Mini-conference on Sustainable Growth and Asian Energy Policy, IIR, March 27, 2012, Hitotsubashi University

Yaichi Aoshima, "Balancing Energy Supply, GHG Reduction, and Industry Competitiveness," International Mini-conference on Sustainable Growth and Asian Energy Policy, IIR, March 27, 2012, Hitotsubashi University



赤池 伸一

■ 履歴

- 1990年 東京大学農学部農芸化学科卒業
- 1992年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了（学術修士）
- 1992年 科学技術庁入庁 省庁再編に伴い文部科学省へ（2001年～）
- 2000年 サセックス大学大学院科学技術政策研究所 (SPRU) 科学技術政策専攻修了（理学修士）
- 2002年 在スウェーデン日本国大使館一等書記官（科学技術・経済担当）
- 2005年 内閣府原子力政策担当室参事官補佐
- 2007年 育児休業
- 2008年 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻博士課程修了（学術博士）
- 2008年 文部科学省科学技術・学術政策局 国際交流推進官
- 2009年 （独）科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー・副センター長補佐
- 2011年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. コンファレンス, 学会発表

Akaike, Shinichi, "Japan' s 'Science of Science, Technology and Innovation Policy' Program and Development of Science, Technology and Innovation Indicators," (Invited Speech), Workshop on Developing Science, Technology and Innovation Indicators for the Future, July 11, 2011, Washington, USA

Akaike, Shinichi, " 'Science of Science, Technology and Innovation Policy' Program," presented at Seminar of OECD/DSTI, August 31, 2011, Paris, France

赤池伸一・青島矢一・長岡貞男「『科学技術イノベーション政策の科学』における人材育成とコミュニティ形成」, 第26回研究・技術計画学会年次学術大会, 2011年10月12日, 山口大学

赤池伸一・藤田健一「科学技術イノベーション政策の効果測定に関する新たな展開」, 第26回研究・技術計画学会年次学術大会, 2011年10月15日, 山口大学

軽部 大



■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ、ペンシルベニア大学
ウォートンスクール, 2007年12月まで）
- 2007年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

武石彰・青島矢一・軽部大『イノベーションの理由：資源動員の創造的正当化』有斐閣，
2012年3月，506頁

1.2. 論文, 本の1章

Kato, Toshihiko, Tsuyoshi Numagami and Masaru Karube, "Types of Intra-Organizational Networks and Upward Strategic Communication" *Hitotsubashi Journal of Commerce and Management*, Vol. 45, No. 1, October 2011, pp. 21-37

加藤俊彦・沼上幹・軽部大「日本企業における組織の〈重さ〉と事業組織の特性」一橋大学日本企業研究センター（編）『日本企業研究のフロンティア・第8号』，2012年3月，所収，15-27頁

Karube, Masaru, Toshihiko Kato and Tsuyoshi Numagami, "Organizational Characteristics of Middle Managers' Deterioration as Sources of Organizational Decline" in Dariusz Jemielniak & Abigail Marks eds., *Managing Dynamic Technology-Oriented Businesses*, IGI Global, forthcoming

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

軽部大「多角化企業における本社組織規模の決定要因」TCER ワーキングペーパー，東京経済研究センター（Tokyo Center for Economic Research, TCER), 近刊

3. コンファレンス, 学会発表

Kato, Toshihiko, Tsuyoshi Numagami, Masaru Karube, Masato Sasaki, Yoshiki Murakami and Hiroshi Watanabe, "Types of Upward Communication and Organizational Characteristics in Japanese Firms," presented at the 2011 Academy of Management Annual Meeting, August 12-16, 2011, Texas, USA

Schaede, Ulrike (Chair), Christina Ahmadjian, Kazuhiro Asakawa, James R Lincoln, Thomas Roehl, Jesper Edman and Masaru Karube, "West Meets East: Research Strategies for Japan Business Studies," presented at the 2011 Academy of Management Annual Meeting, August 15, 2011, Texas, USA

軽部大「多角化企業における本社組織規模の決定要因」, TCER コンファレンス「日本企業の組織改革とパフォーマンス：企業パネルデータによる分析」, TCER および IIR 主催, 2012年3月9日, 一橋大学



清水 洋

■ 履歴

- 1997年 中央大学商学部卒業
- 1999年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 2002年 ノースウェスタン大学大学院歴史学研究科修士課程修了
- 2007年 Ph.D. (経済史) ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス
- 2007年 アイントホーヘン工科大学 (オランダ) ポストドクトラルフェロー
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2011年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

米倉誠一郎・清水洋「日本の業界団体：産業政策と企業能力構築の共進化」柴孝夫・岡崎哲二（編）『制度転換期の企業と市場』ミネルヴァ書房，2011年4月，所収，第6章 195-220頁

Shimizu, Hiroshi and Yasushi Hara, "Role of Doctoral Scientists in Corporate R&D in Laser Diode Research In Japan," Prometheuss, Vol. 21, No. 1, June 2011, pp. 5-21

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Shimizu, Hiroshi and Yusuke Hoshino, "The Nature of Inventive Activities: Evidence from a Data-Set of the Okouchi Prizes and a Comparison with the R&D 100 Awards," IIR Working Paper WP#12-02, February 2012

Shimizu, Hiroshi and Satoshi Kudo, "How Well Does Knowledge Travel? The Transition from Energy to Commercial Application of Laser Diode Fabrication Technology," Business and Economic History On-Line, Vol. 9, 2011

3. コンファレンス, 学会発表

Shimizu, Hiroshi and Satoshi Kudo, "How Well Does Knowledge Travel? The Transition from Energy to Commercial Application of Laser Diode Fabrication Technology," presented at the Business History Conference 2011 Annual Meeting, March 31-April 2, 2011, Missouri, USA

清水洋・楡井誠・村山光太「科学技術における研究開発マネジメント、生産性とセレンディピティ」, 第26回研究・技術計画学会年次学術大会, 2011年10月14日, 山口大学

Shimizu, Hiroshi "Pitfalls of Open Innovation: Comparative Study of Laser Diodes in the U.S. and Japan," 第54回経営史学会中部ワークショップ, 2011年12月17日 名城大学

Shimizu, Hiroshi, "Management of Science, Serendipity, and Research Performance: Evidence from Scientists' Survey in the US and Japan," presented at the International Workshop on Measuring and Managing Innovation, IIR and National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), March 16, 2012, Tokyo



中馬 宏之

■ 履歴

- 1975年 一橋大学経済学部卒業
- 1975年 大成建設株式会社勤務（～1978年）
- 1980年 筑波大学経営・政策科学研究科修士課程修了
- 1984年 ニューヨーク州立大学バッファロー校経済学部博士課程修了
同校より Ph.D.（経済学）
- 1984年 南イリノイ大学カーボンデール校経済学部助教授
- 1985年 東京都立大学経済学部助教授（～1992年）
- 1986年 エール大学経済学部客員研究員（～1987年）
- 1992年 一橋大学経済学部助教授
- 1993年 一橋大学経済学部教授
- 1999年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2000年 エール大学経済学部客員教授（～2001年）
- 2000年 独立行政法人経済産業研究所 ファカルティフェロー（～2011年3月）
- 2004年 文部科学省科学技術政策研究所 客員総括主任研究官（～2007年3月）
- 2009年 総合科学技術会議 基本政策専門調査会専門委員（～2011年3月）
- 2011年～ 総合科学技術会議 評価専門調査会委員

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

中馬宏之「半導体産業の R&D 戦略の特徴を探る：ネットワーク分析の視点から」『経済研究』62巻3号, 2011年7月, 225-240頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

中馬宏之「半導体産業における国際競争力低下要因を探る：ネットワーク分析の視点から」
IIR ワーキングペーパー WP#11-08, 2011年5月頁

3. コンファレンス, 学会発表

中馬宏之「半導体産業の国際競争力低下要因を探る：R&D ネットワークの視点から」, プ
ラナリゼーション CMP とその応用技術委員会, 2011年4月22日, 東京

中馬宏之「半導体産業における国際競争力低下要因を探る：R&D システムの視点から」
IIR 主催産学官連携ワークショップ「イノベーション過程の測定と経営」, 2012年3月
17日, 一橋大学



長岡 貞男

■ 履歴

- 1975年 東京大学工学部卒業
- 1975年 通商産業省（～1992年）
- 1980年 M.S.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1980年 工業技術院計画課、立地公害局工業配置課、通産政策局技術協力課
- 1986年 世界銀行エコノミスト
- 1990年 Ph.D.（経済学）マサチューセッツ工科大学
- 1990年 通産省通商政策局ソ連東欧室長、後ロシア東欧室長
- 1992年 成蹊大学経済学部教授
- 1996年 一橋大学産業経営研究所教授
- 1997年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2004年 一橋大学イノベーション研究センター長（～2008年3月）

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

長岡貞男・江藤学・内藤祐介「NEDO プロジェクトから見たイノベーション過程」『経済研究』62巻3号, 2011年7月, 253-269頁

長岡貞男「経済成長のグローバル化をイノベーション経営に取り込む」『知財管理』62巻1号, 2012年1月, 5-16頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Nagaoka, Sadao and Hideo Owan, "Exploring the Sources of Firm-level Scale Economies in R&D: Complementary Assets, Internal and External Knowledge Inflows, and Inventor Team Size," RIETI Discussion Paper 11-E-038, Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI), April 2011

長岡貞男・塚田尚稔「研究開発のスピルオーバー、リスクと公的支援のターゲット」RIETI Discussion Paper 11-J-044, (独) 経済産業研究所, 2011年4月

長岡貞男・江藤学・内藤祐介・塚田尚稔「NEDO プロジェクトから見たイノベーション過程」IIR ワーキングペーパー WP#11-07, 2011年5月

Nagaoka, Sadao, Masatsura Igami, John P. Walsh and Tomohiro Ijichi, "Knowledge Creation Process in Science: Key Comparative Findings from the Hitotsubashi-NISTEP-Georgia Tech Scientists' Survey in Japan and the US," IIR Working Paper WP#11-09, October 2011

本庄裕司・長岡貞男・中村健太・清水由美「バイオベンチャーの成長への課題：提携と代表者の交代を中心に」 IIR ワーキングペーパー WP#12-01, 2012年1月

金榮慤・長岡貞男「日米上場企業の連結ベースでの多角化データベースの構築と基本的な知見」 IIR ワーキングペーパー WP#12-07, 2012年3月

Nagaoka, Sadao, Akira Takeishi and Yoshihisa Noro, "Determinants of Firm Boundaries: Empirical Analysis of the Japanese Auto Industry from 1984 to 2002," TCER Working Paper E-45, Tokyo Center for Economic Research, June 2012

加藤雅俊・長岡貞男「日本の石油産業における組織再編とパフォーマンス：輸入自由化による競争条件の変化の影響」 TCER ワーキングペーパー J-6, 東京経済研究センター 2012年6月

長岡貞男「多角化による参入と多角化先からの撤退：パネルデータによる要因分析」 TCER ワーキングペーパー J-8, 東京経済研究センター, 2012年6月

長岡貞男・金榮慤「グループ内企業のガバナンスの構造とパフォーマンス：データの構築と最初の知見」 TCER ワーキングペーパー J-9, 東京経済研究センター, 2012年7月

2.2. 研究報告書

長岡貞男 (委員長) 「我が国経済の新たな成長に向けた産業財産権の出願行動等に関する分析調査報告書」, 序論及び4章「特許審査の滞貨発生メカニズムと審査効率の決定要因」を執筆, (財)知的財産研究所, 2012年4月

村上政博 (委員長) 「諸外国の著作権の集中管理と競争政策に関する調査研究」, 第1章「経済分析：著作権管理事業の契約、組織と競争－理論的視点から」を執筆, (財)比較法研究センター, 2012年3月

長岡貞男 (委員長) 「標準規格必須特許の権利行使に関する調査研究報告書」, 第5章「おわりに」を執筆, (財)知的財産研究所, 2012年3月

3. コンファレンス, 学会発表

Nagaoka, Sadao, "Exploring the Sources of Firm Level Scale Economies in R&D: Complementary Assets, Internal and External Knowledge Inflows, and Inventor Team Size," presented at the Second Asia - Pacific Innovation Conference, May 3-4, 2011, Singapore

Nagaoka, Sadao, "Why do Firms Seek Patents and How Useful Patent Documents are for their R&D?: Some Evidence from Inventor Surveys in Japan and the US," presented at the UC Berkeley- Peking University Workshop on Innovation and IPR, May 11, 2011, Peking, China

長岡貞男「知識生産プロセス」, 科学における知識生産プロセス日米ワークショップ, IIR・文部科学省科学技術政策研究所 (NISTEP) 主催, 2011年6月23日, 東京

Nagaoka, Sadao, "An Analysis of Unilateral and Cross-licensing Based on Inventor Survey in Japan", 日本経済学会秋季大会, 2011年10月30日, 筑波大学

Nagaoka, Sadao, "Exploring the Sources of Firm Level Scale Economies in R&D: Complementary Assets, Internal and External Knowledge Inflows, and Inventor Team Size," presented at Strategy, Entrepreneurship, and Tehnological Change (SETChange), November 14, 2011, Philadelphia, USA

長岡貞男・金榮慤「グループ内企業へのガバナンスの構造とパフォーマンス：セグメント、企業及びグループレベルでの分析」, TCER コンファレンス「日本企業の組織改革とパフォーマンス：企業パネルデータによる分析」, TCER および IIR 主催, 2012年3月9日, 一橋大学

長岡貞男「産業特性と企業の多角化・集約化の方向」, TCER コンファレンス「日本企業の組織改革とパフォーマンス：企業パネルデータによる分析」 TCER および IIR 主催, 2012年3月9日, 一橋大学

Nagaoka, Sadao, "Research in 'Pasteur Quadrant' : How It Is Important and How It Matters?" presented at the International Workshop on Measuring and Managing Innovation, IIR and National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), March 16, 2012, Tokyo

長岡貞男「研究コンソーシアムにおける集中研の役割：NEDO コンソーシアムからの知見」, IIR 主催産学官連携ワークショップ「イノベーション過程の測定と経営」, 2012年3月17日, 一橋大学



西口 敏宏

■ 履歴

1977年 早稲田大学政治経済学部卒業
1981年 M.Sc. (産業社会学) ロンドン大学インペリアル・カレッジ
1986年 MIT 国際自動車プログラム常勤研究員
1990年 D.Phil. (社会学) オックスフォード大学
1990年 インシールド, 常勤ポストドクトラルフェロー
1991年～ インシールド, ユーロ・アジアセンター, リサーチフェロー
1991年 ペンシルベニア大学ウォートン・スクール経営学部助教授
1994年 一橋大学産業経営研究所助教授
1997年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
2001年夏 ケンブリッジ大学ジャッジ経営大学院客員研究員
2002年夏 メリーランド大学公共政策大学院客員上級研究員
2003年夏 同 上
2004年秋 マサチューセッツ工科大学国際研究センター客員研究員
2005年夏 同 上
2007年～ 財団法人防衛調達基盤整備協会 非常勤理事
2008年～ 財務省財務総合政策研究所 特別研究官

■ 研究業績

1. 出版

1.1. 著書

西口敏宏 (著) 『ココ・シャネルの「ネットワーク」戦略』 祥伝社, 2011年10月, 253頁

1.2. その他

西口敏宏「社内でもできるリワイヤリング——トップ主導で新たな価値を創造」『Works』
(リクルート ワークス研究所), 2012年2-3月号, 30-31頁

西口敏宏「組織の風通しをよくする処方箋」『かけはし』((財) 産業雇用安定センター),
2012年5月号, 4-8頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

西口敏宏・小口覺「現代のオーラルヒストリー：日産自動車の生え抜きの中で史上最も
若く常務となった遠藤淳一氏が、ゴーン改革とクロスファンクショナルチーム(CFT)
の威力を語る」IIR ワーキングペーパー WP#11-10, 2011年11月

西口敏宏・辻田素子「温州人企業家の成功への道：ネットワークとソーシャル・キャピタルの活用」IIR ワーキングペーパー WP#12-03, 2012年3月

辻田素子・西口敏宏「福建人のネットワークとソーシャル・キャピタル：在日福清人を中心に」IIR ワーキングペーパー WP#12-05, 2012年3月

西口敏宏・姜紅祥・辻田素子「リーマン・ショック以降の温州企業：温州モデルの再考」IIR ワーキングペーパー WP#12-06, 2012年3月

2.2. 研究報告書

西口敏宏「わが国の防衛調達改革における競争入札拡充問題を検討するための調達経済モデルの研究」, (財)防衛調達基盤整備協会, 2012年3月, 52頁

3. コンファレンス, 学会発表

西口敏宏「リワイヤリングで組織が活きる」, 防衛省統合幕監部 統合通信部隊検討部会, 2012年2月10日, 東京



楡井 誠

■ 履歴

- 1994年 東京大学経済学部卒業
- 1996年 東京大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
- 2001年 サンタフェ研究所 ポストドクトラルフェロー（～2004年）
- 2002年 Ph.D.（経済学）シカゴ大学
- 2004年 ユタ州立大学経済学部助教授
- 2006年 カールトン大学経済学部助教授
- 2008年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 未出版物

1.1. ワーキングペーパー

- Guiso, Luigi, Chaoqun Lai and Makoto Nirei, "Detecting Propagation Effects by Observing Aggregate Distributions: The Case of Lumpy Investments," EUI Working Papers, ECO 2011/25, European University Institute, June 2011
- Nirei, Makoto, "Beauty Contests and Fat Tails in Financial Markets," Research Center for Price Dynamics Working Paper No. 76, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, August 2011
- Murao, Tetsushi and Makoto Nirei, "Entry Barriers, Reallocation, and Productivity Growth: Evidence from Japanese Manufacturing Firms," RIETI Discussion Paper 11-E-081, Research Institute of Economy, Trade and Industry, December 2011
- Nirei, Makoto, Theodoros Stamatiou and Vladyslav Sushko, "Stochastic Herding in Financial Markets: Evidence from Institutional Investor Equity Portfolios," BIS Working Papers No 371, Bank for International Settlements, February 2012

2. コンファレンス, 学会発表

- Nirei, Makoto, "Pareto Distribution in Economic Growth Models," Asian Meeting of the Econometric Society, August 11-13, 2011, Seoul, Korea
- Nirei, Makoto, "Pareto Distribution in Economic Growth Models," Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations, 2011年8月23日, 東京大学

Nirei, Makoto, "Beauty Contests and Fat Tails in Financial Markets," The 17th Decentralization Conference in Japan, 2011年9月16日, 筑波大学

Nirei, Makoto, "Pareto Distribution in Economic Growth Models," 日本経済学会秋季大会, 2011年10月30日, 筑波大学



延岡 健太郎

■ 履歴

- 1981年 大阪大学工学部卒業
- 1981年 マツダ株式会社（～1989年）
- 1988年 M.S.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1993年 Ph.D.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1994年 神戸大学経済経営研究所助教授
- 1999年 神戸大学経済経営研究所教授
- 2001年 博士（経営学）神戸大学
- 2008年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

延岡健太郎『価値づくり経営の論理：日本製造業の生きる道』日本経済新聞出版社，2011年9月，288頁

1.2. 論文，本の1章

新津泰昭・延岡健太郎「ビジネスケース：日本写真印刷 Nissha IMD による躍進」『一橋ビジネスレビュー』59巻2号，2011年9月，122-134頁

延岡健太郎「日本企業の生きる道と求められる人材」『品質』（日本品質管理学会）42巻2号，2012年4月，212-218頁

新津泰昭・延岡健太郎「ビジネスケース：ディスコ 競争力の源泉としてのソリューション」『一橋ビジネスレビュー』59巻4号，2012年3月，128-140頁

Takeda, Yoko, Yaichi Aoshima and Kentaro Nobeoka, "The Importance of Technology Integration Capabilities: Evaluating the Impact on 3D Technologies on Product Development Performance in Japan and China" *International Journal of Product Development*, forthcoming

1.3. その他

延岡健太郎「日本の製造企業は学ぶべき師を失った」『一橋ビジネスレビュー』59巻3号，2011年12月，116-118頁

2. コンファレンス, 学会発表

Nobeoka, Kentaro, "Accumulated-knowledge Technologies: Core capabilities of Japanese manufacturing firms," presented at AIB(Academy of International Business) 2011 Annual Meeting, 2011年6月26日, 名古屋

延岡健太郎「価値づくりに貢献する模倣をされない技術とは：積み重ね技術の重要性」, IIR 主催産学官連携ワークショップ「イノベーション過程の測定と経営」, 2012年3月17日, 一橋大学



米倉 誠一郎

■ 履歴

- 1977年 一橋大学社会学部卒業
- 1979年 一橋大学経済学部卒業
- 1981年 一橋大学大学院社会学研究課修士課程修了
- 1982年 一橋大学大学院社会学研究課博士課程から一橋大学商学部産業経営研究所助手
- 1984年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1988年 一橋大学産業経営研究所助教授
- 1990年 Ph.D. (歴史学) ハーバード大学
- 1995年 一橋大学産業経営研究所教授
- 1997年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2001年3月)
- 2003年 ソニー株式会社グローバル・ハブ・インスティテュート・オブ・ストラテジー,
コ・プレジデント (～2004年3月)
- 2008年～ 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2012年3月)
- 2012年～ プレトリア大学ビジネススクール (GIBS) 日本研究センター 所長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

米倉誠一郎『創発的破壊：未来をつくるイノベーション』ミシマ社，2011年6月，289頁

1.2. 論文，本の1章

米倉誠一郎・清水洋「日本の業界団体：産業政策と企業能力構築の共進化」柴孝夫・岡崎哲二（編）『制度転換期の企業と市場』ミネルヴァ書房，2011年4月，所収，第6章 195-220頁

米倉誠一郎「西山弥太郎にみる戦後復興の精神と時代観」『中央公論』126巻5号，2011年5月，42-47頁

米倉誠一郎「東日本大震災がもたらすパラダイム・チェンジ」『一橋ビジネスレビュー』59巻1号，2011年6月，136-146頁

米倉誠一郎「breakthrough scenario 創発的破壊 ポスト3・11のパラダイム・チェンジ」『中央公論』126巻9号，2011年8月，38-46頁

米倉誠一郎「明治における二重の創造的対応：士族授産企業「小野田セメント」の事例から」『同志社商学』63巻5号，2012年3月，1-24頁

1.3. その他

米倉誠一郎「震災後のパラダイム・チェンジとイノベーション」『CIAJ journal』（情報通信ネットワーク産業協会），Vol.51 No.5（通巻597号），2011年5月，4-10頁

米倉誠一郎「鉄が国家だった時代 永野・稲山と鉄鋼業界」『ABC:Asahi Business Club:朝日生命経営情報マガジン』通号181，2011年5月，18-21頁

米倉誠一郎「カリスマ的リーダーは不要。時代に応える一人ひとりの創発的パワーを」『Omni-management』（日本経営協会），通号234，2011年10月，12-16頁

米倉誠一郎「エキサイトメント・クレイジネス、そして林檎」『一橋ビジネスレビュー』59巻3号，2011年12月，119-121頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Yonekura, Seiichiro, "The Samurai Company: Double Creative Response in Meiji Japan -The Case of Onoda Cement," IIR Working Paper WP#12-08, May 2012

3. コンファレンス，学会発表

Yonekura, Seiichiro, "Paradigm Change and Design Shift," presented at the Jeju Forum, May 29, 2011, Jeju, Korea

米倉誠一郎「創発的破壊：震災後のパラダイム・チェンジ」，日経産業新聞フォーラム2011「クラウドA S P・SaaS イノベーション・シンポジウム」，2011年7月5日，東京

Yonekura, Seiichiro, "Paradigm Change after the Quake 'the post 3.11 Japan' ," presented at the 1st Asian Research Policy Symposium, August 31, 2011, Seoul, Korea

米倉誠一郎「創発的破壊：日本のパラダイムチェンジ」，日経産業新聞フォーラム2011「中堅・中小企業のビジネス成功の鍵となる：クラウド時代の企業経営とは」，2011年10月17日，東京

Yonekura, Seiichiro, "The Resilience of Japanese Companies," presented at the Symposium on Resilient Japanese Companies: Implications for Business in Southern Africa, October 19, 2011, Johannesburg, South Africa.

米倉誠一郎「創発的破壊：大震災後のパラダイムチェンジ」，第3回東大エネルギー・環境シンポジウム，2011年11月4日，東京大学

Yonekura, Seiichiro, "Design Minimalism and Social Innovation," presented at the inciteXchange conference, February 17, 2012, Philadelphia, USA.

米倉誠一郎「創発的破壊：大震災後のイノベーション」，2012年度吉林大学・一橋大学共同シンポジウム，2012年3月17日，吉林省，中国

2. 兼任研究員——2011年度

■ 林 大樹

一橋大学大学院社会学研究科教授

3. 外国人研究員（客員）——2011年度

■ ジョン・パイン・ウォルシュ John Pyne Walsh

ジョージア工科大学 教授

研究テーマ「科学者の共同研究と生産性における調査」

2011年1月17日～7月16日

■ フェルナンド・スアレス Fernando Suarez

ボストン大学 准教授

研究テーマ「イノベーション・ストラテジー」

2011年9月21日～12月20日

■ ホルスト・ハヌシュ Horst Hanusch

アウグスブルク大学 教授

研究テーマ「イノベーション政策の国際比較」

2011年9月30日～2012年3月15日

III. 教育活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2011年度

IIR 教員による講義の概要（2011年度講義要綱より）は以下の通りである。

■ 大学院商学研究科の講義

1. 研究者養成コース

[イノベーション講座]

「イノベーション・マネジメント特論」冬学期 2 単位 青島矢一

イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、とくにイノベーション研究の出発点となる、イノベーションの特質、パターン、タイプを主たるテーマとする。イノベーションとはどのような特質をもった現象なのか、どのような発生、変化のパターンをたどるのか、イノベーションにはどのようなタイプがあるのか。これらの問題を扱っている海外の文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。

「イノベーションの経済分析」夏学期 2 単位 長岡貞男

本講義では企業、産業そして経済の成長に重要な役割を果たすイノベーションについて、基礎的な理論を理解するとともに、実証的な分析方法を学ぶことを目的とする。イノベーションにおける不確実性・リスク、知識の特徴、専有可能性、イノベーションによる競争、技術機会、スピルオーバー、汎用基盤技術、R&D 生産性の決定要因、不完備契約と研究開発のマネジメント、技術普及とライセンス、産業のライフサイクルとイノベーションのタイプ、生産性と産業構造変化、内生的な成長理論などをカバーする。また、特許データ等を利用した実証分析の方法も学ぶ。

「イノベーションと戦略・組織」夏学期 2 単位 延岡健太郎

イノベーションの戦略・組織に関する海外の一流ジャーナル論文を読み議論する。本コースの具体的な目的は2点である。第1に、イノベーションの戦略と組織について理解を深めることである。内容としては、イノベーションでは特に重要な、組織能力や資源のマネジメントに焦点をあてる。第2に、学術研究を理解して研究の実施および研究の批判ができる力を養う。バリディティの概念に焦点をあてて、論文を評価する。その理解と議論のために適した、仮説実証型の研究で、数量的・統計的な処理をした論文を読む。

「イノベーションと政策・制度」冬学期 2 単位 赤池伸一

現実の政策形成と研究とを繋ぐという問題意識に基づき、ディスカッション中心の授業を行う。特に、科学技術やイノベーション政策における戦略立案、研究開発投資の効果測定、研究開発マネジメント、政策と社会の関係等、政策と研究を結びつける枠組みについて議論を進める。米国、欧州、日本等において「科学技術イノベーション政策の科学」に関するプログラムが進められているが、アカデミアの立場から新たな学問領域を構築することを目指す。

「イノベーションと人材形成」冬学期2単位 中馬宏之

部品点数が100万点を超えるシステムで日本の競争力が低下すると言われることがある。実際、残念ながら、製造業・非製造業にかかわらず、テクノロジーやマーケットの複雑性のレベルがある臨界値を超えると、そういう傾向が現れてきている。そして、このような傾向は、特にサイエンス上の発見・発明・改良が産業化に直結しやすいサイエンス型産業において、日本のお家芸と言われますもの造りにも影を落としはじめている。本講の目的は、このような事実認識に基づいて、テクノロジーやマーケットの複雑性が急増する中で日本の数多くの産業（主に製造業）が直面しつつある様々な課題を、イノベーションとモジュール設計思想との関係に着目しながら、受講者の皆さんとのディスカッション形式で検討する。なお、本講ではイノベーションを「市場を通じて社会変革をもたらすサイエンス上の創造的な発見・発明・改良」とやや狭く定義することとする。ケースとして主に取り上げる産業は、サイエンス型産業の1つである半導体産業（デバイス、装置、材料）である。同産業が、90年代半ば以降、日本の産業の中で、テクノロジー・マーケットの複雑性増大スピードに最も晒されていると考えられるからである。

「ネットワーク組織論」夏学期2単位 西口敏宏

バブルがはじけて20年たった今日、日本の産業競争力の持続的な低下が指摘されている。この間、特に製造業の国際的な競争状況は様変わりし、中国やインド、東南アジア諸国等の躍進が著しい。この授業では、国際比較の視座を織り込みながら、変転の激しい環境における、組織の存続と繁栄にとって、ネットワーク組織はいかなる役割を演じるのか、ネットワークにおける相互作用からどのような秩序が生まれ、共進化し、新しい体系を生み出すのか、ネットワーク組織の成否を分ける要素とは何かといった観点から、ネットワーク組織の理論的、実証的分析を行う。通説にとらわれず、自分の頭で考え抜く思考力と、実践的な含意の導出が期待される。

「特別講義：イノベーションの国際比較Ⅰ」夏学期2単位 長岡貞男／ジョン・ウォルシュ

Innovation is a key to economic growth. However, we have very little systematic data at the project level to inform us about inventors and the invention process. The purpose of this course is to examine in detail the invention process, using recent survey data from the US and Japan. In particular, we will explore who invents, open innovation, uses of patents, university-based innovation, the R&D process.

「特別講義：イノベーションの国際比較Ⅱ」冬学期2単位 米倉誠一郎／ホルスト・ハヌシュ

シュムペーターをベースに、進化的経済学をサーベイすると同時に、イノベーションが実態経済や経済学に与えた影響について国際比較をする。

「演習」 通年 6 単位 中馬宏之、長岡貞男、西口敏宏、米倉誠一郎、延岡健太郎、
青島矢一、軽部 大、楡井 誠、清水 洋

[ビジネス・エコノミクス講座]

「産業経済分析特論」 夏学期 2 単位 楡井 誠

近年の firm dynamics の文献を題材に、産業組織論の応用を学ぶ。

2. MBA コース

「経営組織」 冬学期 2 単位 青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことであり、そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ビジネス・エコノミクス（競争と戦略）」 冬学期 2 単位 長岡貞男

本コースでは、企業行動における合理的な選択や市場競争の機能を理解するために必要な基礎的な経済分析の概念・道具を学ぶ。機会費用、サンクコスト、価格差別、先行優位の源泉、情報カスケード、クレダブル・コミットメント、合併、カルテルと業務提携の差、水平的競争対垂直的な競争、技術の専有可能性、ネットワーク外部性、比較優位対絶対優位などの概念を理解し、現実の経営問題に応用できるようになることを目標とする。

「企業家精神」 冬学期 2 単位 米倉誠一郎

本講義では、新産業・新規事業を自ら創出し経営に当たってきた企業家、及び企業家的経営者（Entrepreneurs/Entrepreneurial Managers）や経営のプロフェッショナルを招いて、直接ディスカッションすることを目的としている。受講者はそのディスカッションに備えて、当事者の事業創造における意思決定・経営資源・経営戦略・組織革新等について事前分析し、対話を通じて「経営実行力」を学習することが望まれている。したがって、受講者には事前学習として対象企業のケース分析が課せられる。その分析をもとに、経営者とのディスカッションを行うため、質の高いリサーチ能力と執筆技能およびディスカッション能力が求められる。

「戦略分析」 冬学期 2 単位 軽部 大

企業戦略にまつわる書籍や文献は、巷にあふれている。しかしながらその多くは、成功事例を「後付け的に」解釈・整理したものである。背後に存在する「共通の成功（失敗）の原理」にまで言及することは希である。本講義では表層的に現象をなぞるのではなく、背後の戦略行動や戦略志向性を生み出す組織の問題にまで

立ち入って、受講者の戦略的思考法と分析手法の双方を向上させることを目標とする。具体的には、企業の戦略行動の＜分析・評価・意思決定＞に必要となる分析フレームワークと分析技法に焦点を当てる。

「技術戦略」冬学期2単位 延岡健太郎

製造企業の技術・製品戦略について、その理論と応用をクラス内で議論する。主なテーマは、製造企業の経営戦略、製品開発の戦略とマネジメント、コア技術戦略、研究開発マネジメント、部品調達戦略、CAD・CAE、プロジェクトマネジメントなどである。

「特別講義：イノベーションとモジュラリティ」冬学期2単位 中馬宏之

部品点数が100万点を超えるシステムで日本の競争力が低下すると言われることがある。実際、残念だが、製造業・非製造業にかかわらず、テクノロジーやマーケットの複雑性のレベルがある臨界値を超えると、そういう傾向が現れてきている。そして、このような傾向は、特にサイエンス上の発見・発明・改良が産業化に直結しやすいサイエンス型産業において、日本のお家芸と言われるもの造りにも影を落としはじめている。本講の目的は、このような事実認識に基づいて、テクノロジーやマーケットの複雑性が急増する中で日本の数多くの産業（主に製造業）が直面しつつある様々な課題を、イノベーションとモジュール設計思想との関係に着目しながら、ディスカッション形式で検討する。なお、本講ではイノベーションを「市場を通じて社会変革をもたらすサイエンス上の創造的な発見・発明・改良」とやや狭く定義することとする。

「ワークショップ：経営B（産業・技術）」通年6単位 長岡貞男

3. シニアエグゼクティブプログラム

新第7クール 軽部大（共同講義）：

セッション2-5：「戦略を見る目」2011年10月14・15日

「戦略と組織を見る目」2011年12月1・2日

「カネとヒトを見る目」2012年1月20日

「経営の総合判断」2012年3月2日

■ 商学部の講義

「イノベーション・マネジメント」夏学期 2 単位 中馬宏之／西口敏宏

イノベーション（経済価値をもたらす革新）はどのように生み出されるのか。イノベーションを引き起こすためのマネジメントとはいかなるものか。イノベーションからいかに収益を確保するのか。イノベーションを通じて産業構造はどのように変化するのか。経済制度や法制度は産業におけるイノベーションにいかなる影響を与えるのか。イノベーションを生み出す仕組みが国の競争力にどのように関係してくるのか。これらの問いに答えようとする学問領域が「イノベーション研究」である。本講義では、イノベーション研究の全体を網羅するのではなく、ネットワーク理論から半導体産業まで最先端の研究成果を扱うことによって、イノベーションという社会現象を理解する能力を養うことを目的とする。講義形式で基本的な概念や理論を紹介すると同時に、実際の事例を用いて、概念や理論を現実の問題へ応用する機会を提供する。

「生産システム論」夏学期 4 単位 軽部 大

本講義は、企業の新製品開発活動（製品開発革新）から現場の生産工程管理活動（ものづくり）に至る一連のプロセスを効率的に管理することに必要となる、基本的な概念と手法の習得を目的としている。随時クイズ、エクセル等を用いたエクササイズを通じて、基礎的な計算手法の習得も念頭に置く。イノベーションやものづくりに関する歴史、企業が直面する現実的課題の紹介、それらの解決のための考え方、分析手法が講義の中心となる。

「前期ゼミナール（英書講読）」通年 4 単位 楡井 誠、清水 洋

イノベーションは企業の競争力の源泉であると同時に経済発展の大きなエンジンの一つである。そのイノベーションについての基礎的な理解を英語の文献に基づいて獲得することがこの前期ゼミナールの目的である。

「導入ゼミナールⅠ」夏学期 2 単位 西口敏宏、青島矢一、清水洋

「導入ゼミナールⅡ」冬学期 2 単位 中馬宏之、米倉誠一郎

「演習」通年 6 単位 青島矢一、軽部 大

■ 大学院経済学研究科の講義

「ワークショップ／リサーチワークショップ（産業・労働）」夏学期 2 単位 中馬宏之／長岡貞男（他学部教員と共同講義）

2. 資料室

資料室は、イノベーション研究センターの前身である産業経営研究所設立以来、一貫して企業研究の基礎資料の収集・整理に努めてきた。主な資料としては、内外の会社史・経営者史・有価証券報告書等がある。これらの資料は、現在、学内外の教職員・学生に広く利用されている。

■ 資料（2012年4月1日現在）

① 図書

所蔵図書冊数	
和書	76,963 冊
洋書	19,914 冊
計	96,877 冊

2011年度受入図書冊数	
購入和書	218 冊
購入洋書	47 冊
寄贈その他和書	493 冊
寄贈その他洋書	114 冊
計	872 冊

② 雑誌

所蔵雑誌種類数	
和雑誌	623 種
洋雑誌	251 種
計	874 種

2011年度受入雑誌種類数	
購入和雑誌	37 種
購入洋雑誌	71 種
寄贈その他の和雑誌	99 種
寄贈その他の洋雑誌	9 種
計	216 種

③ 特殊文献

会社史	9,403 冊（和書7,882 冊・洋書1,521 冊）
経営者史	6,959 冊（和書6,307 冊・洋書652 冊）
有価証券報告書	冊子体（～1997年） CD-ROM 版（1996年～2002年） インターネット版（eol）（1984年～最新版）
米国大企業年次報告書	641 社
大友文庫	996 冊（和書44 冊・洋書952 冊）

■ 利用（2011年度）

①利用者数および貸出冊数

利用者数

教職員	237人
学生	1,372人
学外	75人

貸出冊数

教職員	534冊
学生	1,760冊

②閲覧室

開室	月曜日～金曜日 9～17時
閉室	土曜日、日曜日、祭日、休日

IV. 研究成果および刊行物

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 一橋ビジネスレビュー——2011年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する、(5) 読者葉書、ホームページ等、読者と場を共有しながらオープンでインタラクティブな関係を目指す。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1~2回程度、特集をテーマに「一橋ビジネスフォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。今年度は、「グローバル競争下での意思決定：スピードと決断」と題して開催された。

■ 編集顧問

御手洗富士夫（キヤノン株式会社 代表取締役会長）

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

黒川 清（政策研究大学院大学教授／元・日本学術会議会長）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長）

青島矢一 赤池伸一 加賀谷哲之 加藤俊彦 軽部 大 橘川武郎 楠木 建 清水 洋中
馬宏之 長岡貞男 中野 誠 西口敏宏 楡井 誠 沼上 幹 延岡健太郎 林 大樹 藤川
佳則 松井 剛 守島基博

学外

藤本隆宏（東京大学） 金井壽宏（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学） 榊原清則（法
政大学） 武石 彰（京都大学） M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国）
M. Kenney（カリフォルニア大学デービス校 米国） 李 亨五（淑明女子大学校 韓国）
J. Lin（北京大学 中国） 徐 正解（慶北大学校 韓国）



■『一橋ビジネスレビュー』 第59巻1号 2011年6月

○特集 「知識経営の最前線」

日本企業のイノベーション・プロセスに着目し、「知識」という経営資源に初めて目を向けた「知識創造理論」の登場から20年。現在も日本発の経営理論として世界中から注目を集めている。本特集は、日本企業の閉塞感を打開するために、知識の持つ意味を問い直し、知識経営のさらなる発展をめざす試みである。知識創造理論のパイオニアである野中郁次郎氏の最新の議論から、マーケティング、人材マネジメント、ファイナンス、ICT・工学の第一人者による論文を収録し、理論と実務の両面から多角的に分析する。

○特集論文

野中郁次郎 「イノベーションを持続するコミュニティをつくる」

守島基博 「知識創造を支える人材マネジメント」

小川進／藤川佳則／堀口悟史 「知識共創論：ユーザー・ベースの知識創造経営に向けて」

大澤幸生／西原陽子 「チャンス発見のためのコミュニケーション：遊びと喧嘩は江戸の華」

廣瀬文乃 「知識創造のソーシャル・イノベーション：知域知縁のまちづくり」

山本 修 「イノベーション創出システムの再設計：『知識創造による経済成長』への新たなアプローチ」

菊澤研宗／野中郁次郎 「知識ベース企業の境界設定：取引コスト理論を組み入れた SECI モデルの展開」

○特別寄稿

米倉誠一郎 「東日本大震災がもたらすパラダイム・チェンジ」

○連載 「技術経営のリーダーたち」 (11)

西川和男 (シャープ株式会社) 「自分の領域という壁を取り払え」

／インタビュアー 延岡健太郎・青島矢一

○連載 「経営学のイノベーション」：サービス・マネジメントのフロンティア (4)

藤川佳則 「顧客視点の価値共創：事後創発的ダイナミックモデル」

○コラム連載 「人勢」議論 第6回

金井壽宏 「欠陥をカバーする変革から肯定的変革 (ポジティブ・チェンジ) へ」

○ビジネス・ケース

藤原雅俊／青島矢一／三木朋乃 「東レ：逆浸透膜事業の創造プロセス」

江夏幾多郎 「アサヒビール：職場の人材形成における伝統の保持と刷新」

○経営を読み解くキーワード 平田 透 「暗黙知」

○マネジメント・フォーラム

橘川武郎 「福島第一原発事故が明らかにした日本の電力業の大問題」

／インタビュアー 米倉誠一郎

○私のこの一冊

松尾 睦 「学び続けるプロフェッショナルの条件：ドナルド・ショーン『専門家の知恵』」

森本博行 「通念を超えて現実を見極める：ジョン・ケネス・ガルブレイス『ゆたかな社会』」

○投稿論文

大竹光寿 「ユーザー・イノベーションとブランド・コミュニティ」



■『一橋ビジネスレビュー』 第59巻2号 2011年9月

○特集 「転換期の金融規制と金融ビジネス」

世界を震撼させたリーマン・ショックから3年が経過し、グローバル金融危機を受けた金融規制の再構築が、世界規模で進行している。本特集では、危機後の世界における金融規制の枠組みを展望するとともに、その内容を吟味し、また、新しい枠組みがビジネス環境の変化として金融業に及ぼす影響を検討する。さらに、常に新しいフロンティアを開拓してきた世界の金融ビジネスの歴史を振り返った上で、今後、アジア経済の力強い成長を、日本の金融業が自らの繁栄に結びつけることができるかを模索する。

○特集論文

- 佐藤隆文 「金融規制改革の潮流と望ましいプルーデンス政策への展望」
- 翁 百合 「マクロプルーデンスの視点に立った金融監督政策」
- 齊藤 誠 「自己資本比率規制のマクロ経済学的な根拠について」
- 淵田康之 「規制強化が金融ビジネスにもたらす中長期的影響」
- 藤井真理子 「金融ビジネスのグローバル展開：歴史からの示唆」
- 関根栄一 「世界的金融危機後の中国の金融・資本市場改革」

○連載 「技術経営のリーダーたち」(12)

- 佐藤穂積 (JSR 株式会社 取締役兼常務執行役員)
- 「お客さんに直接会って工場の現場に足を運んでこそ本質をつかむことができる」
- ／インタビューー 中馬宏之・延岡健太郎・青島矢一

○ビジネス・ケース

- 安田隆二 「スルガ銀行：個人金融サービス・カンパニーへ進化し続ける地方銀行」
- 新津泰昭・延岡健太郎 「日本写真印刷：Nissha IMD による躍進」

○連載 「経営学のイノベーション」：サービス・マネジメントのフロンティア (5)

- 藤川佳則 「価値共創の実務的示唆：日本企業の機会と課題」

○マネジメント・フォーラム

- イアン・ブレマー (ユーラシア・グループ 代表取締役社長)
- ／インタビューー 米倉誠一郎
- 「枠組みなき G ゼロ時代に中国という国家資本主義とどう向き合うべきか」

○コラム連載 偶然のイノベーション物語 第1回

- 榊原清則 「石鹼物語」

○経営を読み解くキーワード

- 青木康晴 「トンネリング」

○私のこの1冊

- 伊藤秀史 「戦略的行動を深く理解する：トーマス・シェリング『紛争の戦略—ゲーム理論のエッセンス』」
- 浅羽 茂 「『定説』を疑い新たなモデルを構築する：梅原猛『水底の歌—柿本人麿論』」



■『一橋ビジネスレビュー』 第59巻3号 2011年12月

○特集「インド市場戦略」

近年のインド市場は、年率8%前後の成長を続けており、リーマンショック以降も成長が衰えていない。高い経済成長が続いたことで、人口12億人を超えるこの国にも大きな消費市場が形成されようとしている。本特集では、インド市場戦略をキーワードに、インドの経済発展に伴う消費者の意識変化と消費市場の性格、日韓企業の新興市場戦略、B to B ビジネスの状況、インド地場企業の経営戦略などを概説し、インド市場の諸相と新興市場へのアプローチについて考察する。

○特集論文

岩垂好彦「モザイク模様のインド消費価値観：変わるインド、変わらないインド」

鈴木信貴・新宅純二郎「産業財のインド市場戦略」

朴 英元・天野倫文「インドにおける韓国企業の現地化戦略：日本企業との比較を踏まえて」

プラジャクタ・カーレ「インド自動車産業の歴史的発展：産業政策から見る自動車メーカーの成長と中小部品メーカーへの副作用」

李 澤建「インドはモータリゼーションの夜明けか：市場発達段階と新興国商品戦略」

島田 卓「スズキのインド戦略：ブルーオーシャンを求めて」

○特別寄稿「スティーブ・ジョブズに捧げる」

青島矢一／武石 彰／延岡健太郎／米倉誠一郎

○連載「技術経営のリーダーたち」(13)

木山精一（三洋電機株式会社 エナジーデバイスカンパニー ソーラー事業部 副事業部長）

「技術者は若いうちが勝負。35歳までは、とにかく全力でがんばってみる」

／インタビュアー 延岡健太郎・青島矢一

○ビジネス・ケース

青島矢一・北村真琴「セイコーエプソン：高精細インクジェットプリンターの開発」

池内 誠・武田慎祐・清水 慎・狩野英樹・Ryu Yu

「京都市立堀川高等学校：学校改革の軌跡」

○連載「経営学のイノベーション」：サービス・マネジメントのフロンティア (6)

藤川佳則「サービス研究の最前線から」

○コラム連載 偶然のイノベーション物語 第2回 榊原清則「石鹼物語」

○経営を読み解くキーワード 西川英彦「ユーザー・イノベーション」

○マネジメント・フォーラム

サンジーヴ・スィンハ（株式会社サンアンドサンズアドバイザーズ 代表取締役社長）

「多様性の国インドでビジネスに成功するためにはダイナミック・マネジメントが重要で
す」

／インタビュアー 米倉誠一郎

○私のこの1冊

石井淳蔵「研究者の姿勢を問うた書：野中郁次郎『組織と市場——組織の環境適合理論』」

井上達彦「『言葉』の意味を問い直す：九鬼周造『「いき」の構造』」

○投稿論文

江島由裕「中小企業が成長する駆動力：企業家的な戦略志向性」



■『一橋ビジネスレビュー』 第59巻4号 2012年3月

○特集 「リアルに考える原発のたたみ方」

東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機にして、わが国のエネルギー政策のゼロベースでの見直しが進められている。どれくらいのペースで進展するかについては、論者によって見通しが異なるが、中長期的に見て、わが国の電源構成に占める原子力発電のウエイトは縮小してゆくことだろう。原発推進派と脱原発派が互いにネガティブ・キャンペーンを展開する時代は終わった。今こそ、「リアルでポジティブな原発のたたみ方」を考えるとときである。本特集では、さまざまな立場から、専門家が建設的な提言を行う。

○特集論文

鈴木達治郎 「3・11以後の原子力政策課題」

齊藤 誠 「普通の産業技術として見た軽水炉発電技術」

吉岡 斉 「脱原発工学の構想」

飯田哲也 「『リアルな原発のたたみ方』のリアリティ」

澤 昭裕 「電力システム改革：小売りサービス多様化モデル」

青島矢一 「環境、エネルギー、産業競争力の両立を考える：ミクロの視点の重要性」

島本 実 「日本の太陽光発電産業は復活するか」

○連載 「技術経営のリーダーたち」(14)

土屋雅義 (ソニー株式会社 クリエイティブセンター センター長)

「デザインは、企業の明日を拓くイノベーション・ハブになる」

／インタビュアー 延岡健太郎・青島矢一・長内 厚

○連載 経営学のイノベーション：はじめてのビジネス・エコノミクス(1)

柳川範之 「テレビがただで見られる理由は：二面的市場モデルとは何か」

○ビジネス・ケース

新津泰昭・延岡健太郎 「ディスコ：競争力の源泉としてのソリューション」

吉村咲野・久保田達也 「カラオケ機器業界：2社による複占体制の成立」

○コラム連載 偶然のイノベーション物語 第3回

榊原清則 「帆船から蒸気船へ」

○マネジメント・フォーラム

カール-A・フェヒナー (ジャーナリスト・映画監督・プロデューサー)

「もう動きだしている。再生可能エネルギー100%の世界へ」

／インタビュアー 米倉誠一郎

○経営を読み解くキーワード 矢澤憲一 「監査人の独立性」

○第11回ポーター賞

大藁恵美・山崎聖子 「ポーター賞受賞企業に学ぶ」

○私のこの一冊

石倉洋子 「マネジメントへの大きな励まし：羽生善治『決断力』」

長内 厚 「あっと驚くものをこしらえる：島谷泰彦『人間 井深大』」

○投稿論文

武重佳宏 「競争戦略が日本企業の企業成果に与える影響に関する実証研究」

2. ワーキングペーパー——2011年度

イノベーション研究センターでは、個人または共同研究の過程で明らかになった最新の成果をワーキングペーパーとしてタイムリーに発表している (<http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/cgi-bin/search.cgi?mode=wp>)。

WP#11-05	Aoki, Shuhei, "A Model of Technology Transfer in Japan's Rapid Economic Growth Period" April 2011
WP#11-06	Aoshima, Yaichi and Tatsuya Kubota, "An Influence of Organizational Positioning of R&D Activity on Innovation Process: A Comparative Analysis of ArF Resist Materials Development" April 2011
WP#11-07	長岡貞男・江藤学・内藤祐介・塚田尚稔「NEDO プロジェクトから見たイノベーション過程」2011年5月
WP#11-08	中馬宏之「半導体産業における国際競争力低下要因を探る：ネットワーク分析の視点から」2011年5月
WP#11-09	Nagaoka, Sadao, Masatsura Igami, John P. Walsh and Tomohiro Ijichi, "Knowledge Creation Process in Science: Key Comparative Findings from the Hitotsubashi-NISTEP-Georgia Tech Scientists' Survey in Japan and the US" October 2011
WP#11-10	西口敏宏・小口覺「現代のオーラルヒストリー：日産自動車の生え抜きの中で史上最も若く常務となった遠藤淳一氏が、ゴーン改革とクロスファンクショナルチーム（CFT）の威力を語る」2011年11月
WP#12-01	本庄裕司・長岡貞男・中村健太・清水由美「バイオベンチャーの成長への課題－提携と代表者の交代を中心に－」2012年1月
WP#12-02	Shimizu, Hiroshi and Yusuke Hoshino, "The Nature of Inventive Activities: Evidence from a Data-Set of the Okouchi Prizes and a Comparison with the R&D 100 Awards" February 2012
WP#12-03	西口敏宏・辻田素子「温州人企業家の成功への道—ネットワークとソーシャル・キャピタルの活用」2012年3月
WP#12-04	青島矢一・三木朋乃「日本における地熱発電の可能性：アイスランドの現地調査から」2012年2月
WP#12-05	辻田素子・西口敏宏「福建人のネットワークとソーシャル・キャピタル--在日福清人を中心に」2012年3月
WP#12-06	西口敏宏・姜紅祥・辻田素子「リーマン・ショック以降の温州企業——温州モデルの再考」2012年3月
WP#12-07	金榮慤・長岡貞男「日米上場企業の連結ベースでの多角化データベースの構築と基本的な知見」2012年3月

3. ケーススタディ——2011年度

諸企業に関する最新の調査成果の外部報告を、ケーススタディとして適宜発行している (<http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/cgi-bin/search.cgi?mode=cs&lpage=20>)。

- | | |
|------------|---|
| CASE#11-01 | 伊藤誠悟「デンソー：自動車用発電機 Ⅲ型オルタネータの開発・事業化」
2011年5月 |
| CASE#11-02 | 浅倉泉・川副浩平・小暮亮輔・濱田智久・藤盛健太・柳澤涼太「株式会社 湖山亭うぶやの組織改革」2011年8月 |
| CASE#11-03 | 小室匡史・江藤学「三菱電機株式会社：人工網膜チップの開発と事業化」
2011年9月 |
| CASE#11-04 | 伊藤誠悟「株式会社デンソー 電子制御式ガソリン噴射装置（EFI）の開発・事業化」2011年9月 |
| CASE#12-01 | 奥村祐一郎・江藤学「セイコーエプソン株式会社：3LCD プロジェクタ
開発と事業化」2012年1月 |

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒186-8603
東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411(代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research